

の 広報 ほりべつ



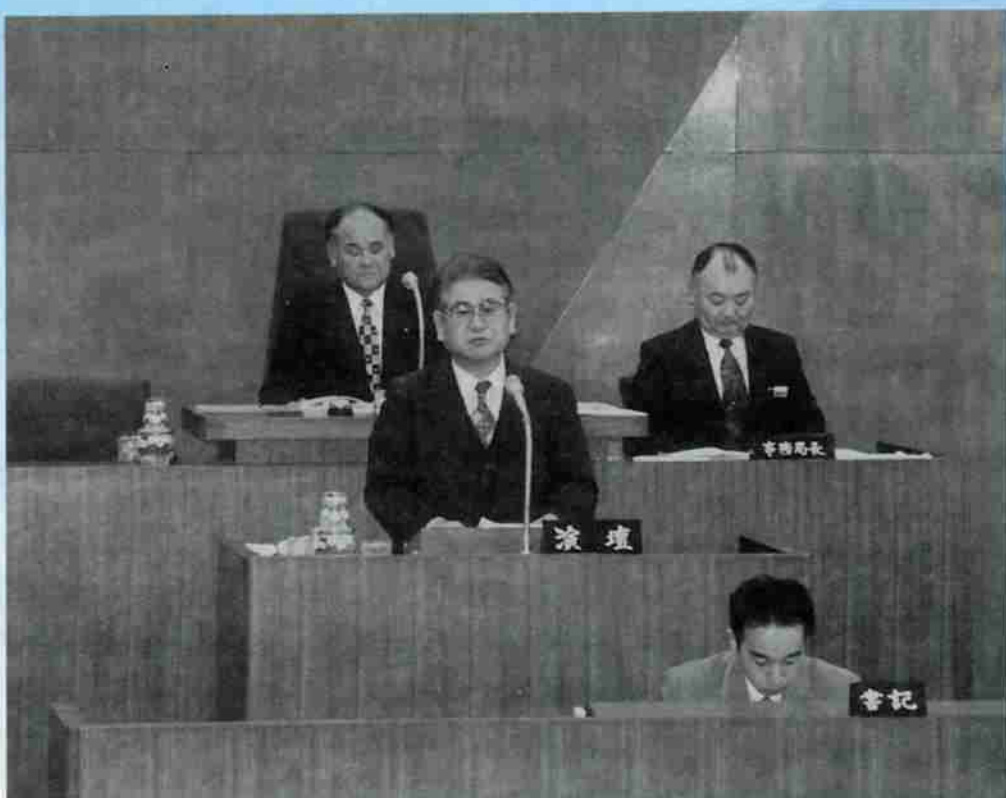
特集

- ◆ 市政執行方針
- ◆ 教育行政執行方針
- ◆ 市民リポート
登別の青年団活動について
市民リポーター 大村朋子さん
- ◆ さらに
プロレスラー 足立知也さん

4/1
1996
No.546

平成8年度

市政執行方針(要旨)



▲市政執行方針を発表する上野市長

平成8年度予算案などを審議する第1回登別市議会定例会が3月4日に招集され、その中で上野市長は市政執行方針を説明しました。市政執行方針は、登別市がこれからの1年間、まちづくりをどのように進めていくのか市民のみなさんに示すものです。

今回は市政執行方針、教育行政執行方針、新年度予算の要旨をお知らせします。

〔重点課題〕

1 新総合計画

平成8年度からスタートする新しい総合計画については、この計画の実現を目指して着実な推進を図るため、必要に応じて個別部門に指針を策定する事に取り組みるとともに、計画の進行管理を容易にするために、向こう3か年の短期実施計画を策定します。

これらの指針や実施計画に基づく事業の進行状況については、これを公表して、広く市民のみなさんご意見を伺いたいと考えています。

個別部門の指針

◆新総合計画で目指す「ふれあい交流都市」への接近に向けて、国際観光レクリエーション都市にふさわしい国際化の方向を定めるため、「地域国際化指針」の策定に取り組みます。

◆パーソナルコンピュータの急速な普及など情報機器の活用が進む中、情報化の進展は市民生活の各般にわたり大きな影響を及ぼすばかりでなく21世紀を展望した地域産業の振興にも重要な役割を果たすと考えられますので、関係機関・団体との連携のもと「地域情報化指針」の策定に取り組みます。

◆家庭や街路、工場敷地、学校用地などの身近なみどりから登別を取り囲む大自然まで連なる自然と共生したまちづくりを、行政と民間が一体となって推進できるよう、

その指針となる「緑化計画」の策定に取り組みます。



2 行政改革



昨年11月に策定した「登別市行政改革実施計画」は、多様化し増大するニーズに対して執行体制の肥大化を招くことなく、適切に対応して行くことを基本として策定したもので、今年はその具体的な取り組みを行う初年度として、**改革の年と位置付けることとしました。**



◆職員定数については、自治省が示す定員モデルや類似団体の職員数などについても比較検討し、さらに新総合計画の想定人口なども考え合わせた結果、条例に定める職員定数を削減し、以後は、その範囲内で適正な定員管理に努めることとしました。

◆優れた文化やスポーツイベントの鑑賞機会の充実と各種施設の利

用と管理の効率化を推進するため、7年度中に文化・スポーツ振興財団を設立し、8年度からは、新たな体制のもと行政が行う社会教育事業やスポーツ振興事業などの役割分担を図り、活発な事業運営が行われるよう指導します。

◆ふれあい豊かな地域づくりをすすめるにあたって、自主的に行われるコミュニティ活動が重要になっています。このため、連合町内会並びに各町内会について、その活発な活動と健全な事業運営が確保されるよう支援していきます。

◆効率的な保育所運営と子育て支援の強化を図るため、美園保育所を警別保育所に統合し、これを機に、保護者からの要望で最も多かった**延長保育を実施します。**



◆組織機構については、これまでも時代に即応した柔軟な体制づくりに努めてきましたが、より、効率的な行政運営を行えるよう総合調整機能や横断的な業務処理体制の充実、応援体制の確立など総合的な組織力の強化を図ります。

◆8年度は、災害時におけるきめ細かな救援体制を確立するため、**地区ごとに市職員の防災担当者を配置します。**

◆高齢者保健福祉計画の見直し、子育て支援のための施策の基本方向を定めるいわゆるエンゼルプランの策定、障害者のまちづくり指針に沿った新たな障害者福祉計画の策定など、保健福祉事業にかかわる基本的な計画の策定とその進捗管理を総合的に行うため、保健福祉部に**福祉対策室を新設します。**



▲3月22日に行われた第29回美園保育所退所式並びに開所式の様子

また、毎年、行政改革の取り組み経過や実績などについて、登別市行政改革推進委員会に報告しご意見をいただくとともに、これを公表し、広く理解と協力を得るなど、適切な進捗管理に努め、計画的に推進していきます。



なことは、計画的、継続的、反復的に取り組むことであり、また、そのための体制をしっかりとつくり上げることです。

このため、まず第1に職員の政策形成能力の開発を図り、職員自らが、行政改革に積極果敢に取り組み意識の醸成に努めます。

3 財政運営

平成8年度の予算編成にあたっては、「中期財政試算」による中期的な見通しのもと、行政改革を着実に推進し、行政経費の節減合

理化を図るとともに、財政の健全化に配慮しつつ、地方債制度の適切な運用と基金の活用により、財源の重点的かつ効率的な配分を図って、市民福祉の向上に努めることとしました。

また、特に経常的経費のうち旅費、交際費、需要費などの事務管理経費については、徹底した節減に努めたところでありますが、今後の執行についても一層厳正に取り組んでいきます。

〔主要施策〕

1 地域経済の活性化

◆ 厳しい環境の中で、地域経済活性化の芽をしっかりとらえ、大きく育てるとともに、関係機関との連携のもと、地場産業を育成し、その活動を支える支援策を推進していきます。

8年度は、市内経済の下支えを図るべく前年度を上回る公共事業の総額を確保しました。この執行にあたっては、可能な限り地元活用を図り、事業活動の停滞を招くことのないよう早期発注に努めます。

◆ 商業機能の更なる強化を図るた



め、**幌別地区商店街近代化事業**を引き続き支援し、核店舗と商店街が連動し相互に補完しあえる環境づくりを促進します。

◆ **商店街近代化事業**と一体的にす



すめている**北駅前通り街路整備事業**については、8年度、道路拡幅に伴う建物解体工事が本格化しますが、引き続き用地補償などの事務を促進し、中央通りから幌別駅



雇用対策救済事業費	33,944
農林水産業費	
私内営農用水施設整備事業負担金	50,087
来馬第1地区道営農免農道整備事業負担金	27,000
小規模治山事業費	8,800
登別市中山間地域活性化推進基金積立金	15,000
(商工費)	
中小企業特別融資積立金	464,000
登別観光協会助成金	22,500
登別観光振興特別対策事業補助金	50,000
(土木費)	
市道改良・舗装事業費	613,090
市道舗装排水整備事業費	500,000
道道改良受託事業費	2,006,728
河川改修事業費	98,030
公園新設事業費	110,000
街路事業費	248,730
防衛施設周辺整備事業費	79,370
公営住宅(登別温泉団地)建替事業費	522,316
公営住宅(桜木団地)建替事業費	40,722
(消防費)	
救急業務高度化対応資機材整備事業費	8,620
消火栓新設事業費	10,600
大容量防火戸新設事業費	16,120

(教育費)

教育用コンピュータ導入経費	16,645
若草小学校プール整備事業費	12,600
西陵中学校屋内運動場大規模改造事業費	113,200
温泉公民館改造事業費	25,000
財団法人登別市文化・スポーツ振興財団補助金	14,824
(仮称)千歳グリーンパーク新設事業費	160,873

(国民健康保険特別会計)

ヘルスパイオニアタウン事業費	11,379
----------------	--------

(学校給食事業特別会計)

学校給食センター整備事業費	22,177
---------------	--------

(公共下水道事業特別会計)

公共下水道事業費	1,646,160
終末処理場(若山浄化センター)増設工事費	215,050

(水道事業会計)

配水管布設事業費	127,700
配水管改良事業費	216,999
登別温泉高区配水池設計委託費	30,000



前までの区間についての事業認可を受け、「シンボルロード」としての整備を図っていきます。

なお、この街路整備事業により不整形な街区となる地区については、市道の改廃を含め、街区再編成事業に取り組みます。

◆工業については、時代の変化に対応でき得る技術力や製品開発力の強化が求められています。産・学・官の連携や異業種交流を促進するとともに、地元資源を活用した地場製品の開発を支援するため、8年度は、新たなビジネスチャンスを指し、新規市場開拓や首都圏企業との交流、商談会の機会づくりに努めます。

◆長引く不況の影響により停滞する商工業活動を支援するため、中小企業特別融資枠の拡大を図るとともに、中小企業相談事業に対する助成を強化します。

◆市民と一体となって、「まるごと登別」の売り込みを、一層、推進するとともに、入湯税の見直しを行い、日帰り入浴や修学旅行にかかる税額を軽減し、誘客の一助とします。

◆国際化の進展に伴い海外の観光地との競争が激しくなっています。登別を名実ともに国際的な観光地として発展させるため、観光協会が行う事業に対し、8年度は、新たに経済成長が著しい東南アジアをターゲットとするツアー誘致キャンペーンとインターネットを活用した情報発信事業を支援します。

◆登別温泉パイパスについては、物件補償と用地買収がすすみ、8年度にはいよいよ本工事着工の見通しとなりました。引き続き事業の促進を図るとともに、パイパス開通を見越した温泉街のまちづくりをすすめるため、地域のみならずとも、「登別温泉地区市街地総合再生基本計画」の策定に取り組みます。

◆農業については、農免農道、営農用水などの基盤整備を引き続き実施するとともに、市営牧場の草地改良に取り組みます。

◆「特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律」に基づき基盤整備計画を定めて事業の推進を図ることとし、これに充てるための中山間地域活性化推進基金を設置します。

◆活魚荷捌き施設の活用をすすめるため、小型漁船冷却装置設置事業に助成するとともに、これらの施設から出荷される新鮮な素材を観光など地場産業との結び付けや地元消費の拡大を図るため、関係者による連絡会議を開催するなど調整に努めます。



(単位：千円)

新年度予算 新しいまちづくりのスタート

3月4日に開会した平成8年第1回定例市議会で、平成8年度の前算が可決、成立しました。

予算額は、一般会計218億1千700万円、特別会計と水道会計を含めた総額は363億8千万円になり、平成7年度の当初予算と比較すると8.8%の増です。

8年度の前算は、スタートを迎えた新総合計画に基づくまちづくりを視野に入れながら編成しています。

主な事業の予算額

〈一般会計〉

(議会費)	
議会だより発行経費	1,352
(総務費)	
OA化推進に要する経費	47,978
テレビ北海道幌別サテライト局新設事業費	22,700
(民生費)	
地域福祉活動促進事業費補助金	7,150
在宅介護支援センター設置運営経費	6,023
訪問看護サービス事業に要する経費	5,162
仕事と育児両立支援事業費	10,500
身体障害者デイサービス経費	21,510
在宅老人デイサービス経費	24,893
交通安全施設整備事業費	86,840
(衛生費)	
地域総合整備資金貸付金	200,000
墓地施設整備事業費	6,500
火葬場建替事業調査費	16,100
千歳最終処分場整備事業費	90,259
清掃工場整備事業費	18,600
(労働費)	
登別市シルバー人材センター補助金	30,600
勤労者特別融資積立金	265,000

2 都市施設の整備について

◆一般廃棄物処理施設については、ごみの排出抑制、中間施設による資源化や再生利用、減量化など、「環境にやさしい循環型処理システム」の構築を目指し、新たな最終処分場並びに中間処理施設の建設に向けて、これまで建設予定地の選定やごみ質の調査、施設整備計画の策定などに取り組んで来ましたが、8年度中には、国や道との協議をすすめ、9年度の着工が可能となるよう、万全を期していきます。

◆昨年6月に「容器包装に係わる分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」が制定され、消費者、事業者、行政の役割分担が定められましたので、これを踏まえて**容器包装の分別収集計画**を策定します。

◆ごみ処理施設の建設には多額の経費を必要とすることなどから、**ごみ収集の有料化**については、市民の理解が得られるよう取り組みを進めます。

◆新たな中間処理施設の建設を予定している**日の出野球場**は、多くの市民に利用されているので、早急に代替施設を整備することになりました。

北海道曹達(株)のご好意により必要な用地を確保することが



きたので、野球場のほかにはパークゴルフやテニス、ジョギングなども楽しめる施設として整備します。

◆火葬場は、建設されてから既に22年を経過し、施設全般にわたって老朽化が著しく、また、待合室やロビーが狭いため利用者に不便をかけています。

このため、やすらぎや快適性を重視し、無公害型の炉などを備えた近代的な施設を**霊園の整備**に合わせて新設することとし、8年度は地質調査や基本設計を行います。

◆市道の道路網整備については、市内各地区の連携強化や地域産業の発展、都市機能の充実を図るため、富岸西路線、カルルス路線、登別富浦路線、東札内線、石山通りの改良を促進するとともに、カルルス東雲線の改良に必要な用地取得を進めていきます。

◆交通安全対策として引き続き歩道の設置を進めるとともに、小型



ロータリー除雪車を購入し、歩行者の安全確保に努めます。

なお、勾配の急な坂道について**ロードヒーティング**を行うため、路線調査や工法の検討などをすすめていきます。

◆道道については、洞爺湖登別線の改良促進を図るとともに、「マイロード事業」の指定を受けて整備



されていた桜並木の区間が完成しますので、モニメント設置などの**記念事業を実施**します。

◆街路の整備については、円山通りの改良を促進し、環状通りの用地取得を進めていきます。

また、北海道が施工している富士通りの早期完成を図るとともに、北駅前通り並びに登別温泉通りの用地取得などに協力し、事業の促進に努めます。

◆土地区画整理事業の推進と幹線



道路の整備により若草、新生、富岸地区は、新たな市街地としての整備がすすみ、良好な住宅地として、また、にぎわいある商業地区として発展しつつあります。

若草地区については、街路、公園などの都市施設と宅地を一体的に整備して連続性のある町並み形成を促進するため**土地区画整理事業の導入**が大きな課題となっています。これまで、地権者の理解と協力を得るために説明会や意向調査を行って来ましたが、事業化にあたっては、軟弱地盤対策、地権者の合意形成、事業施行主体の選定など解決すべき課題が多いことから事業の実現に向けて、更に調査を進めていきます。

◆都市公園については、地域特性に配慮しながら計画的に整備を推進していきます。8年度は美園公園の完成を期するとともに、富岸公園は、9年度の完成を目指して事業の促進に努めます。

◆市営住宅については、再生マスタープランに基づき、登別温泉団地立替事業を促進するとともに、桜木団地立替えに向けて実施設計を行います。

また、道営住宅については、登別東団地並びに桜木団地建設事業の促進を図ります。

◆**公共下水道事業**は、事業完成までに膨大な費用と年数を要しますので、毎年度の財政状況を勘案しながら積極的に事業の推進を図るとともに、水洗化を促進し健全な事業運営に努めます。

昨年10月に第3期計画の認可を得ましたので、8年度は、若山地区の幹線管渠整備に着手すると



- ◆ 若山浄化センターの処理能力の増強をすすめます。
- ◆ 登別東処理区の処理方法について引き続き調査検討を行います。
- ◆ 雨水対策として北駅前通り街路整備事業に伴う雨水幹線函渠の整備を行います。
- ◆ 上水道事業については、登別温泉地区の給水を一層安定的に確保するため、配水池を新設することになりました。8年度は実施計画を行います。
- ◆ 災害時における給水を確保するため、給水区域のブロック化を計画的にすすめていきます。
- ◆ 私設給水管の老朽化などにより水圧が低下している地区の配水管新設をすすめるとともに、漏水の原因となる老朽石綿管の解消に努めます。
- ◆ 水源確保のため、クスリサンベツ川の水利権取得基礎調査を引き続き実施し、その可能性について

検討します。

- ◆ テレビ北海道難視聴地域解消については、幌別中継局に中継機器を設置し、8年度は幌別地区の難視聴の解消を図ります。

3 少子化・高齢化に対応した保健、福祉サービスの拡充について

- ◆ **在宅介護支援センター**を新設し、関係行政機関やサービス提供機関との連携のもと、在宅の寝たきりや痴呆性老人を抱える家族などのニーズに応じるとともに、必要な各種保健・福祉サービスを提供できる体制を整備します。



- ◆ 看護や介護を必要とする高齢者などが在宅で安心して療養生活が

送れるよう訪問看護サービスを提供するための訪問看護ステーションを設置します。

- ◆ 一人暮らしの高齢者の食生活の改善などを目的に、地域住民やボランティアの協力を得ながらモデル地区を設定して給食サービスパイロット事業を実施し、本格的な事業実施体制の構築に努めます。



- ◆ 高齢者や障害者のデイサービス事業については、現在しんた21において実施していますが、利用者が年々増加し、その大半が重度の要介護高齢者であること、また、介護する側が高齢になりつつある世帯が多くなってきており、今後

もこの傾向が続くことが予想されることなどから、民間の協力を得て機能分担を図り、サービス提供の場を拡充します。

8年度は、老人保健施設「グリーンコート三愛」におけるデイケアのサービス展開を支援するため、移送サービス用車両を購入します。

- ◆ 「医療法人友愛会恵愛病院」が病院新築に伴い痴呆性老人などのデイケア機能や精神障害者の日常生活の自立を支援する支援寮の整備を計画しているので地域総合整備資金貸付制度、いわゆる「ふるさと融資」を活用し、これを支援します。

- ◆ 高齢者などが自立で安心して生活を営むために必要な住宅の改良や新築について、建築、福祉、保健衛生の担当職員で構成するリフォームヘルパーの派遣指導を行うとともに、公営住宅などについて、引き続き手すりの設置など改善をすすめます。

- ◆ 肢体不自由を伴う障害児は、従来からのぞみ園において療育に努めてきましたが、これに加え、障害が特定できなく知的または情緒面において心配がある子どもたちについても受け入れます。

- ◆ 地域医療体制の整備について、眼科および耳鼻咽喉科の医療機関の誘致は、長年の懸案でしたが、この度、眼科は、本年6月に開業することとなり、耳鼻咽喉科は、平成8年度内に立地される見通し

になりました。

また、室蘭市医師会が行っている室蘭・登別急病センターの診療は、本年4月から市立室蘭総合病院の医師がセンターでの診療にあたり、診療時間を午前零時まで延長することになりました。

- ◆ 子育てを社会全体で支援する環境づくりとして、安心して子どもを生み、育てることが出来る環境づくりをすすめるため、基本的な



方針を示す子育て支援総合計画を策定します。

また、働く女性の仕事と育児の両立を支援するため、託児などの育児の援助を求めるとともに、協力を求める人を会員として組織化し、会員の相互援助活動を行えるようファミリー・サポート・センター事業に取り組みます。

- ◆ 国民健康保健事業は7年度については、幸いにして、単年度黒字

決算となる見込みです。今後とも、健康づくり事業や各種検診を推進するほか医療費の適正化や納税相談の強化による納入しやすい環境づくりに努め国保財政の健全化をすすめていきます。

◆各種ガン検診の自己負担額が引き上げられることになりましたが、国保加入者は、引き上げ分も含めて引き続き自己負担額を助成するとともに、8年度には、新たに基本健康診査の自己負担額についても助成し、受診率の向上を図ります。

◆国では、公的介護保険創設にむけた検討がすすめられており、これに合わせて医療保険制度、老人保健制度の抜本的な改正が図られようとしています。

これらについては、市町村の負担増を招かない高齢者介護制度が確立されるよう要請するとともに、引き続き国保制度の抜本的改正についても関係機関に要請していきます。

4 災害に強いまちづくり

◆広域支援体制の実効性をより高めるため、防災機動力の一体性の確保に必要な無線機器や消火機器をはじめ、大規模災害用器具の整備をすすめます。

◆災害時における初期活動を一層



充実させるため、職員の初動体制の在り方を見直すとともに、新たに地区防災担当職員を配置します。

◆災害時において、何よりも重要なことは、正確な情報の収集とその提供にあります。8年度は、多くの観光客を迎え入れる登別温泉地区について、情報の収集と伝達の精度を高めるため、**防災行政無線中継施設**を設置します。

◆大規模地震による被害状況を早期に把握し、防災関係機関の初動活動の充実強化を図り、広域応援体制を迅速に行うために、北海道と連携して強震計を活用した震度情報ネットワークシステムを構築人命の救助、救急患者の搬送などを行う「北海道防災航空隊」の業務に協力していきます。

◆防火対策については、中高層建築物などの火災に対応するため、はしご車を導入することとし、8年度は専用車庫を建設します。

◆断水時などの水利を確保するために、大容量防火井戸の新設にかかるほか、引き続き消火栓の整備をすすめます。

◆市民の防災意識の高揚のための



防災研修会の開催、広報紙・イベントなどを通しての啓発、避難所標識の設置などに努めるとともに、災害時に備え、被災者用食料や毛



▲教育行政執行方針を発表する後藤教育長

教育行政執行方針(要旨)

学校教育の充実・振興について

◆新規6校を含め10校を研究校として指定し、幌別小学校では、文部省研究指定の成果を公開するなど、各学校での研究を奨励し、一層、**教員研修の充実**に努めます。

◆今後の小学校へのコンピュータ導入に先立ち、指導用として各小学校にコンピュータを導入します。

◆郷土学習の一環として、小学校3年生を対象に「**入浴体験学習**」を実施します。

◆いじめについては、学校・家庭・地域の連携を一層密にし、その対



布の備蓄を行います。

◆市は、過去において大雨災害にたびたび見舞われてきたことから、これまで治山・治水対策、配水対策の推進に努めてきましたが、引き続き小規模治山や準用河川の改修をすすめるとともに、幌別駐屯地周辺の排水路整備、登別温泉中央通り道路災害防除事業を実施し、災害に強いまちづくりをすすめていきます。

応に努めていきます。

◆登校拒否については、これまでの対応について、更に検討を加え、





また、市内教職員が自主的に組織した「登別市教職員交通安全クラブ」の活動については、より実効のあるよう支援します。

◆多様化する児童生徒のし好にあわせ、**リクエスト献立**を実施するなど、給食内容の改善・充実を図るとともに、調理用かまの取り替えなど、施設の整備を図ります。

◆引き続き、外国青年招致事業、中学生の海外派遣事業を実施するとともに、姉妹校との交流活動を支援します。

◆姉妹都市白石市との交流については、文化・スポーツの相互交流を引き続き行い、友情のきずなが一層深まるように努めます。

◆これまでも措置してきた別枠の図書購入費を継続措置し、**学校図書**の整備充実に努めます。

◆障害をもつ児童生徒の指導については、障害の程度に応じた適切な指導を行い、社会参加を促す教育の充実に努めます。

◆幼稚園教育については、教育課程の編成に工夫を凝らし、各園間の研究交流を深めるなど、教育指導の充実に努めます。

◆西陵中学校屋内運動場の全面改造を昨年度から2カ年の継続事業として実施し、あわせて、暖房設備の設置も行います。

◆若草小学校プール槽の改修とろ過装置の取り替えを行います。

◆鷺別小学校屋内運動場に新たに補助暖房を設置します。

◆生命を尊重し事故から身を守る態度を育成するとともに、「交通安全教室」を開くなど、交通安全意識の一層の高揚に努めます。



なお、各学校の施設はいずれも老朽化の課題をかかえています。今後とも、学校運営に支障がないよう**維持管理に努めていきます**。

社会教育の 充実・振興

◆このたび策定した「**社会教育中期計画**」に基づき、生涯学習の一層の定着と充実・振興に努めます。

◆マイプラン講座を奨励し、公民館講座の充実に努めます。
また、女性団体の活動がより主体的、積極的に行われるよう支援し、婦人短期大学の学習内容の改

善・充実を図っていきます。

老人大学や大学院についても、学習内容の充実を図りながら、「知恵の派遣」や「世代間交流」など、豊かな経験や知識が最大限生かされるよう支援していきます。

◆家庭教育学級については、引き続き、モデル学級を指定するなど一層内容の活性化を図られるよう努めます。

◆老朽化した登別温泉公民館の内部改修工事を行います。

◆派遣社会教育主事の配置を北海道教育委員会に要請していきます。

◆文化協会をはじめ、関係団体との連携を図り、地域文化の振興に努めていきます。

◆また、小学校合同芸術祭や中学校音楽祭を開催していきます。

◆「**文化伝承館**」は、郷土資料の展示や体験学習の場として広く活用するとともに、登校拒否対策の一環としても活用していきます。

◆ごみの中間処理施設建設に伴う「日の出野球場」の代替え場としては、仮称「**千歳グリーン・パーク**



◆「**登別市文化スポーツ振興財団**」には、市民会館、総合体育館などの施設の管理とあわせて、文化・スポーツ事業の一部を委託します。

◆なお、財団の運営は、その設立の趣旨が生かされ、適切な運営がなされるよう、支援していきます。

◆道立図書館や近隣の図書館と連携を密にし、広く資料や情報の収集に努め、一層親しまれる図書館の運営に努めます。

◆生涯学習の推進については、学校教育と社会教育が、更に連携を密にし、学習機会の提供・充実を図るとともに、市民の学習ニーズに応えるよう努めていきます。

◆また、本年度は、「**第一回胆振管内生涯学習フェスティバル**」が当市で開催されますので、その成功に向けて支援していきます。



最近、ボランティアという言葉や色々な所で耳にするようになりました。地域社会のボランティア、災害時のボランティア活動など、よく聞くわりにあまり身近な存在ではないような気がしていました。それは今まで私自身、関心がなかったということも一つの理由で、それは、今回はボランティアについて取材を…、と思ったものの、奥が深すぎてかえって難しくなるのでは…。

そんな時、知人がボランティア精神で地域や若者たちの交流の場を作ろうという団体に所属している、という話が飛び込んできました。私は、その団体は農村などには多い青年団のようなグループではないだろうか、それならきっと楽しく身近に感じることができると考えて、さっそく取材をお願いすることにしました。

「友愛青年連盟登別支部」

友愛青年連盟登別支部、という初めて耳にした団体の支部長が、知人の仙台正夫さんでした。



まず、友愛青年連盟のあらましを聞くことにしました。友愛青年連盟は本部を東京に置き、都道府県全域に支部があります。友愛社会の実現を目指し、昭和28年に設立。青年の健全育成、社会教育活動などを行ってきました。登別支部は昭和38年に旗揚げされたそうです。当時、会員数は80名にもほり、清掃活動や花いっぱい運動のボランティア、レクリエーションなど文化活動が盛んだったそうです。昭和40年に、より地域社会と密着した活動しようという目的で、市内の他の市民グループとともに、登別市青年団体連絡協議会（登青連）を組織。これがその青年団というものでしたが、平成2年以降、休止状態となっていたそうです。その理由をお聞きしたところ、「会員は、社会人がほとんどだったので、結婚や転勤などの理由で会員数が減っていききました。それで、ある程度の人数が必要な活動は難しくなっていました」

「メイキングパズル」

では、若い世代の人たちは、どのような活動に全く関心がないのかというと、そうではありません。陰ながら頑張っているグループの一つに「メイキングパズル（MAKING PUZZLE）」という高校生から20代前半の若い方々が構成されたグループがありました。したので、例会におじゃましてお話を聞きました。

メイキングパズルは、かつて登別市子ども会育成連絡協議会（登子連）のリーダー研修に参加した子ども会の出身者が、子どもたちのために何かをしたいと集まり、平成5年4月に発足しました。理事長の畑山三香さんが発起人となり、3年の間ほとんど口コミ

で会員を集め、現在は社会人12名、高校生7名の計19名で活動しています。活動内容としては、今年1月に、市内の他の団体や教育委員会に協力して成人祭の運営を行いました。自主的な活動では、7・8月頃のお祭りに露店を出したり、市内の小・中学生を集め市民会館でメイキングパズル祭を開催したりと、子どもたちとの交流を重視しています。



▲話しはずんだメイキングパズル例会のようす

パー自身も残念そう。今年こそは絶対に開催して、たくさんの子どもたちに来てもらいたいと張り切っていました。

イベントスポーツクラブ

成人祭の運営に参加した別の団体に「イベントスポーツクラブ」という団体の名前がありました。

私としては、人や地域社会に様々な形で関わっている人々に触れ、ボランティア精神というものにも触れたような気がして、それならその団体にも話を聞きたい！と、意欲がわき、取材をお願いすることにしました。

会長の木村義基さんの勤務先は白菊幼稚園。その一室で、廊下から園児たちの遊ぶ声が聞こえてくる中、お話を聞きました。

イベントスポーツクラブは、登別・室蘭・伊達の3市合同青年国内派遣事業に参加した登別のメンバーが中心となり、7年前に発足しました。



▲運営に参加した平成8年成人祭

発足当時の会員数は12、13名でしたが、現在は10名を切り、平均年齢は30歳くらいです。

活動内容は、成人祭のイベントはもちろん、札内の大地の祭典でのボランティア活動や刈田神社祭典での露店の出店などです。また、若い世代のグループなどを育てていくことも重要な役割の一つと付け加え、



「若い世代が登別の郷土を愛し、本気で街づくりの発展に取り組もうとする姿勢が大切なのではないでしょうか。それには、子どもの頃から心豊かに育まれる地域の環境づくりが必要だと思います」と、人づくりの大切さを強調。そういった思いは園児たちにも注がれていることと思います。逆に、その子どもたちから教えられることは、子どもの存在すべてだそうです。「子どもは素直です。人間として最低限の、悪いことをしたら謝る、きちんとありがとうを言う、

人と仲良くする、といったような行為をすぐにできますが、大人はどうでしょう」と、私も共感してしまふような話も聞くことができました。

地域社会に文化をおこすのも、福祉活動のボランティアをするのも、全ては人づくりから始まり、子どものような素直な心で人と解れ合うということなのかもしれせん。

ボランティアって一体何?

そして最後に、青少年のボランティア活動を支援している教育委員会社会教育課青少年係の内藤係長にお話を聞きました。

「今まで取材してきた団体に共通して会員数の伸び悩みが問題としてあげられていましたが、昔はどうだったんでしょうか。」

「色々な団体の活動が盛んだった時代は、今と違い物もそんなに豊富ではなく、人との交流の中に情報があつて、仲間同士で何かしようとするのも楽しかったんですよ。今は物や情報がありすぎて、かえって自分たちで何か物事をおこそうという気が起きないのではないのでしょうか。」

「それでは、今後、今の若い世代の人たちがそのような活動に興味を持つことは難しいのでしょうか。」

「現に活動している若者たちもいます。また、地元に残るといふことでも、将来的に地域社会に何かの貢献をすることになるのではないかと思えますが……」

「地域社会に貢献し、様々なボランティア活動を展開している団体を見てきたのですが、ボランティアとは一体何なのでしょうか。」

「ボランティアといっても、広すぎて一言には言えませんが、ただ、自発的に、見返りを求めず、社会のために汗を流すことだと私は思います。その点では、今ある団体の方たちもそういう精神で頑張っていることになるでしょう。」

「今後の登別の若者たちにはどんな課題がありますか。」

「やはり、登別という故郷を愛する心を一人ひとりが持つことから始まると思います。その中から街づくりの発展に対する声も大きくなっていくでしょうし、そうすれば若者たちにとっても関心のあがる街になっていくでしょう。」

◆ ◆ ◆

今回の取材で色々な団体の方に時間をさいていただき、本当にありがとうございました。私の勉強不足や考え方の未熟さから、失礼な言動があつたかもしれませんが、私としては、このような団体の方々を知ることができただけでも大きな収穫と思っています。

みなさんが共通して語られていたことを今思い出すと、「登別という故郷をより良い街に」という一言だったと思います。良い街とは、子どもからお年寄りまで、色々な考えを持った人が参加でき、夢があり発想性の広がるような文化を持つ、緑あふれる街だと私は思います。遠い街からちよつとし

たことで訪れた人たちに、一度は住んでみたい、もう一度行ってみたい、と思われような街。

以前読んだ本の中に、このようなことが書かれてありました。

「人の生き甲斐とは自分が誰かの役に立っているということ、他人に何かを与えているということのような意識を持っていることではないか。」

その言葉に出会った時に、私は生まれてきた意味を考えました。

また、ある詩では、

「生まれてきたということは、人のためにちよつと何かすること」ということも書かれています。

「ちよつと何かする」ということは、確かに大きな事ではないかもしれませんが、ささやかなボランティア精神もその言葉に含まれるのではないかと思います。

「ちよつと何かする」

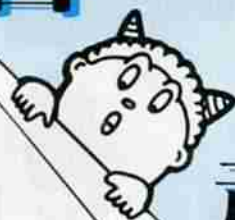
そんな人がたくさん住んでる街になつたらいいなと夢と希望を持ち、私自身も、そんな街になるように努力することのできる若者の一人になれたらと思います。

今回紹介した団体では、会員を募集しています。詳しくはお問い合わせください。(連絡は午後6時以降にお願いします)

◎友愛青年連盟登別支部
仙台さん (☎080067)

◎メイキングパズル事務局
栗田さん (☎051088)

◎イベントスポーツクラブ
木村さん (☎051227)

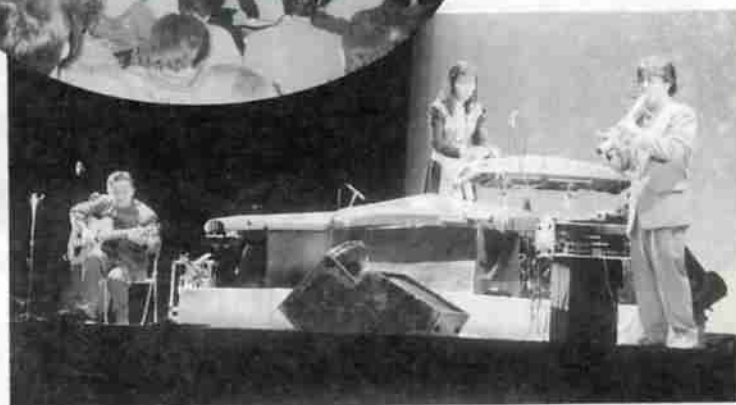


自然の大切さを学び、 自然のすばらしさ を感じる

市民グループ・幌別川を育てる会が主催した第3回幌別川ネイチャーフォーラムが3月17日、市民会館で開かれ、講演会とコンサートを通して自然と人間の共生について多くの市民が考えました。

講演会には約80人が参加、エコネットワーク代表の小川徹氏、河川工法研究家の福留脩文氏による講演は「身近な題材からの話だったので分かりやすくおもしろかった」と参加者から好評でした。

コンサートに出演したのは北海道の雄大な自然をテーマに活動している若手音楽グループ「遠くまで音」。尺八、ギター、箏の透き通るようなサウンドは、客席を魅了していました。



心地よい汗流した 15,000人



今月オープン2周年を迎えるしんた21のトレーニングルームは、オープン当初予想していた年間5千人を大きく上回る好調な利用状況が続き、3月12日に利用者が1万5千人を突破しました。

1万5千人目は、いつも夫婦そろって利用しているという五十嵐由紀さん（若草町在住）でした。

五十嵐さんは、手渡された記念品に驚きながら「これからも利用を続けたい」と話していました。

私が見た登別

自然を身近に
感じますね



佐々木千鶴子さん
(登別東町)



—いつ登別に来ましたか
主人の仕事の関係で、平成6年11月に大阪府阪南市から来ました。

—阪南市はどんな街ですか
大阪府の南部に位置し、大阪市のベッドタウンとして発展してきた街で、関西国際空港があります。

—登別を知っていましたか
登別というと温泉が有名というだけで知っていました。主人

が北海道出身なので、よく聞いていました。

—登別に住んでみての感想は
自然が豊かで、山を見ても、海を見てもスケールがちがうなと感じました。

—春は、山菜採りに行ったり、冬はスキーに行ったりと自然を満喫しています。主人や子どもたちも、登別漁港や俱多楽湖で釣りを楽しんでいます。

—空がきれいですし、自然がすぐそばにあるという感じがしますね。

—登別に望むこと
お年寄りや子どもたちが、気軽に遊べる公園が近くにあるといいなと思います。季節の花が咲いていた、ゲートボール場があったり、「遊びに行こうか」と言えるような公園があったらいいですね。

東 奔



迫力！ 劇団阿修羅 特別講演

登別市出身の松木圓さん演出による劇団・阿修羅特別講演、「二人の怒れる男達」が3月8日、市民会館で上演されました。約800人の演劇ファンで埋まった会場は、舞台上の迫真演技と、2時間休憩なしで一気に進むスリルあふれるストーリー展開にかたずをのみ、生の舞台の魅力を十分堪能していました。

楽しみながら 熱戦展開！

だれもが気軽に楽しめ、年々愛好者が増えるミニバレーボールを通して、市民の運動不足解消とスポーツの振興を図ることを目的に毎年開催されている登別市民ミニバレー大会が、3月17日に総合体育館で開かれ、34チーム、159人の参加者が楽しく、熱い戦いを繰り広げました。



仲間たち

学んで生きる仲間たち

郷土資料館ボランティアサークルSLG

代表 灰原 泰明さん
(郷土資料館) ☎0574809



SLGは、何か社会の役に立つことがしたいと考えた有志が集まって、平成5年に発足しました。メンバーのみなさんは、郷土資料館で行われる体験学習などの行事を陰で支える緑の下の力持ち。年間190日にも及ぶ資料館への奉仕活動を行い、手作りの竹馬や水鉄砲、連風などは市内で行われるさまざまな行事に引っ張りだこです。

ボランティアをはじめたのは、退職を迎えて健康な体と時間があるので何か社会に奉仕できることはないかと考えて、同館へ申し出たのがきっかけで、現在では17人のメンバーが自分の特技を生かしながら活動しています。同会発足のきっかけとなった、最古メンバーの山下利夫さんは「気の合う仲間と、なごやかに笑いがある雰囲気最高です。人との交流も楽しいですし、子どもたちの笑顔はお金に変えられない報酬です。最近は資料館以外の行事でも活動しているんですけど、うれしいですね。必要とされていると思うと燃えます(笑)」。これからは技術より人の輪を大切にしながらアットホームでマイペースな活動を続けていきます」と話してくれました。

わたしの趣味

折り紙工作



あらい ひろし さん
（美園町）

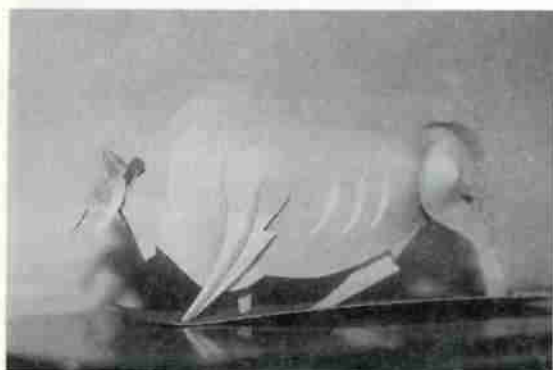
画家でもある宍戸さんは、趣味で折り紙やペーパークラフトづくりなどを楽しんでいきます。

折り紙は一枚の紙から何羽にも連なった鶴やペンギン、かっぱなどあらゆるものを折っていきます。

「例えば一羽の鳥でも折り方ひとつで表情が変わりますから楽しいですね。見た物なんでも作ってみたくなるので、もう500〜600種類は折っているんじゃないかな。」

折り紙は、紙さえあればどこでも気軽にできるので、列車の中で泣いている子どもによく折ってあげられますが、どの子もすぐに泣きやんで喜んでくれますよ」とにこやかに話してくれました。

折り紙を本格的に始めたのは教師になってからで、退職後も子どもたちに教える機会が多く、子どものまじがいが新しい折り方のヒントを



▲ペーパークラフトの牛の作品
動物などは特徴がよく表現されていました

得ることもあるそうです。

ペーパークラフトは、題材を図面に書き、それを硬めの紙に写してカットして切り、ボンドなどで張り付け、動物やお面などを立体的に作り上げます。切り口が一ミリ違っただけでも全体がゆがんでしまうこともあり、緻密で手間のかかる作業ですが、できあがったときの満足感がなんともいえないそうです。

「やはり楽しいからやってみようね。できあがったものは自分の生きがいや夢が反映されます。飾っておくと生活空間がうらやましいですね」との言葉どおり、部屋や玄関には折り紙やペーパークラフトの作品がたくさん飾られていました。

ゆけむりネットワーク 登別応援団

子どものころの気に入った場所



たけだ まさひろ さん（45歳）
（横浜市緑区在住）

昭和41年登別温泉中学校卒業。
日本電気移動通信株式会社
東京げんきかい幹事

好奇心旺盛な子どものころ、温泉の周囲の山々でよく遊んだものである。勝間橋、俱多楽湖、地獄谷、大湯沼。そして少し冒険をして橋湖や千畳敷のような、人があまり行かない場所にもよく行った。

地獄谷の奥の赤い地肌のごつごつした小高い丘を越えると映画「失われた世界」のような光景が見えてくる。ここが千畳敷である。四方を急峻な崖に囲まれた文字通り千畳ほどの平坦な地で、奥の方に小さな沼があり周囲は火山灰が堆積し、ごつごつとした火山岩がゴロゴロしている。その沼の水は冷たく魚はいなかったが、アメンボウが群生し、背後からは草が覆い被さるように迫っていた。腰ほどの深さのこの沼で夏は泳いだり、冬はスケートをした事もある。左側の崖をよじ登ると俱多楽湖

道路に出ることができ、その道を横切り大湯沼に出ることができた。当時、大湯沼では、筏を浮かべもうもうと立ち込める湯煙の中で硫黄採取をしている光景を見ることができた。

子どものころとても気に入った千畳敷にはもう30年以上も行っていない。次回帰郷の節にはぜひ足を伸ばしてみようと思う。



▲武藤さんお気に入りの千畳敷
（昭和40年ころ撮影）

登別郷土文化研究会 宮武 紳一

「札幌本道」登別を通る(4)

幌別から登別までの情景



▲明治初年の幌別川の橋(右が幌別側)

初めて架設された、長さが58メートルの幌別橋を渡ると、本道の浜側に木柵を巡らせた馬の放牧場(幌別町2丁目・(株)上田商会コンクリート工場付近)と、東側に家屋(チセ)・貯蔵庫(ブ)など16戸の建物が見える。また、本道の山側に30平方メートルほどの大きな会所があり東側は門を巡らせ、鳥居や

幅9メートル、道路を約40センチほど土盛りした新道が造られた。

幌別から東へ進むと、オカシベツで本道の山側に6戸ほどの家屋が見える。オカシベツ川を挟んで「ウニ取りの伝説」を実証するよう集落が残っている。

さて、蘭法華坂は、前号で紹介した通り標高約80メートルの高さで立ちはだかっている。江戸期からの旧道は、岬の高台・リフルカから「七曲り坂」を富浦町1丁目、富浦漁業会館(現在の富浦会館)の方へ下る路だけであった。

富浦町4丁目、胆振家畜保健衛生所前の旧道を真っすぐ進み、山際に添って道路を造成する。崖の上下とも崩落を防ぐために、幅広く開削し路肩に柵を設けて、札幌への荷積みの馬車が走れる本格的道路を造らなければならぬ。

20人あまりの犠牲者を出した室蘭仏坂とは比較にならぬ大工事であるが仏坂の悲惨な状況を記録で見ると「ラッパ森(仏坂一帯)の岩石に、大小の爆薬を装置し、日夜間断なく岩を破壊し暗澹たる雲が海陸を庄する。瀑声股々と鳴りわたり天誅地軸一時に崩壊する様相を呈し、岩石は飛び散り、血走り幾多の生命を死傷せしめ、人夫は悲惨の場裏に呻きのたうちまわる。回りの者は大胆な工事に驚嘆し、身内眷族は無惨な死傷者に泣き、医者は東西に走り、葬具屋は店頭に踊り、僧侶は葬儀に忙殺さ

れ、惨憺たる現状は戦場の修羅場の如し」と当時の請負業者橋本忠次郎が語っている。

要するに、事業者も火薬の取り扱いに不慣れで、岩盤の適当な所に発破を仕掛け、発破の威力も考えず、作業員も非難させずにそれぞれが勝手に火縄に点火し爆発させる。一カ所の爆発に驚いて逃げ迷った場所が次々に爆発する、という乱暴な状況であったらしい。

蘭法華坂の大工事は、札幌本道最大の難工事であったが、仏坂大惨事の反省から工事による事故の記録は見当たらない。ただし、ケンカによる殺人や傷害事故は日常茶飯事であったようだ。開拓使は「職工人夫怠惰戒めの規則」をつくり元室蘭(石川町)に仮囚(牢屋)を設けて、犯罪者の取締りを行っていた。

さて、現在の富浦墓地東南の道路が当時の札幌本道の頂上付近で、登別小学校前に通じている。

登別川に、長さ45メートル・幅3.6メートルの木橋が架けられ、橋の東側に6戸の家屋も見えるが現在の登別本町1・2丁目登別村の中心で、2丁目山側の花園神社は約140年前の八幡神社跡、昭和2年に移設された。

札幌本道は、登別小学校前通りから、登別東町2・4丁目の了英寺(株)でんきのシマムラ前通りを(有)勝間米穀店北側に抜け、登別東町1丁目の渡辺金物店北側の道路を通っていた。

札幌本道の開削計画に当たった外国人指導者ワーフィールドは酒癖が悪く幌別でも狩猟用の北海道犬7匹を殺傷、札幌でも事件を起こし、新任の測量長ワツソンが幌別橋から指導に当たっている。

江戸期は海岸沿いにあった踏み分け路も、現在の国道の位置に、



きらり

必殺技は「地獄谷」
プロレスラーへの夢かなう

シャーク足立

(足立知也さん)

子どものころ、「強くなりたい」「ヒーローになりたい」と思い、プロレスラーに憧れ、その夢を現実にするため大変な努力を積み重ね、1月25日に登別出身のプロレスラーとして見事デビューを果たした足立知也さんに話を聞きました。

「なぜプロレスラーになりたいと思ったんですか」
「小学校3年生くらいの時、テレビでプロレスを見てタイガーマスクやアントニオ猪木にすごく憧れたんです。それで、絶対タイガーマスクみたいなヒーローになりたいなと思ったんです」
「プロレスラーになって良かったと思うのはどんな時ですか」

「デビュー戦の試合が終わった後、お客さんの「足立コール」を聞いたときは今までいりんな苦勞して来たことが頭の中から吹っ飛びましたね。感動で胸が詰まって、涙目になっちゃいました。苦勞してそれでこんな見返りがあるならこれからどんな苦勞でもしたいと思います。あれがあるからプロレスはやめられないと思いましたね」
「将来の目標を聞かせてください」
「強くなって有名になって登別を宣伝できるようなプロレスラーになりたいです。登別出身ということに誇り



を持ってますからね。もう、自分のオリジナルの技にヘルバレースブレックス(地獄谷落下式原爆固)って名付けたら、雑誌の取材なんかには好きな食べ物は熊まんじゅうって答えたりしてますけど(笑)。
あと、地元で登別で試合をしたいです。その時はぜひみなさん応援しに来てほしい」
足立さんは現在、PWCという団体所属のプロレスラーとして活躍していて、4月12日にはデビュー3戦目、4月下旬には後楽園ホールでの団体対抗のリーグ戦への参戦が決まっています。それに向けて合宿に入っているそうです。

頑張ってください!!

フレッシュ米女

デイサービスセンターの生活指導員として今年の春で3年目を迎える麻衣さん。しんた21で忙しく充実した毎日を送っています。

「仕事について教えてください。」

「デイサービスの中で行われるさまざまな講座を担当しています。」

書道やカラオケ、詩吟などの講座の企画、講師の先生の手配、参加される方の送迎まで全てを担当しています。参加されている方が良い方向に変化して行くのを見ると、やりがいを感じます。

逆に、こちらがよかれと思ってした事でも、言葉が足りなくて誤解を招いたり、

まだまだ勉強不足で利用者の方にはいつも教えられてばかりです。

「今、一番興味のあることは。」

「今年からスノーボードを始めて、月に2回くらいスキー場に通ってるんですけどなかなか上達しませんね。腕前は超初級です(笑)。」

「登別市に望むことは。」

「体が不自由な方や、お年寄りが気軽に一人でも外出できるようなまちになってほしいですね。」

「最後に一言どうぞ。」

「身体障害者手帳をお持ちの方ならどなたでも送迎つきで利用できますのでどんどん利用してください。春から講座も増やす予定で、参加者全員が心から楽しめるように気合入れて頑張りますのでよろしくお願ひします。」



佐藤麻衣さん

23歳 登別市社会福祉協議会デイサービスセンター勤務

まのらから

「登別市文化・スポーツ振興財団」事業開始

市民が中心となった幅広い文化、スポーツの振興を図るため、また、今まで市教育委員会で行ってきた文化、スポーツ事業の推進や、市民会館、総合体育館、市民プールの効率的な運用を進めるため「登別市文化・スポーツ振興財団」が市から委託を受け業務を始めます。

4月1日から、財団の職員が窓口で受付などの仕事をしています。
 ▼市民会館、総合体育館は毎日（年末年始は除く）使用するこ
 とができます。
 ▼各施設の使用方法については、今までと同じです。

市民会館 電話1100
 総合体育館 電話5552
 市民プール 電話5588
 ▼問い合わせ
 登別市文化・スポーツ振興財団
 電話1116

登別地域大学

第6期

第3回講演会

▼テーマ 「おれはおまえのボスだ！」円山動物園飼育係の30年戦争」反抗的な類人猿との対決や、知的動物たちが織り成す事件・事故の数々を赤裸々に明かすおかしな動物園の裏話。
 ▼講師 札幌円山動物園 明石克之さん

▼日時 4月19日（金）18時30分
 ▼場所 市民会館 大会議室
 ▼聴講料 一般聴講生 2千円
 ▼問い合わせ 登別地域大学 電話2903（廣瀬さん）

ネイチャーゲームで

春を見つけよう！

春のいぶきを体いっばいに感じて楽しみませんか。



▲昨年のネイチャーゲームの様子

▼日時 4月14日（日）10時～12時
 ▼場所 亀田記念公園
 ▼参加料 保険料100円 バンダナ持参
 ▼定員 30名（定員を越えた場合は抽選）親子大歓迎

▼申し込み 4月12日までに自然愛好グループヨシキリの会 電話7515（伴野さん）

自衛隊幹部候補生

募集

▼受付期間 4月18日（木）～5月24日（金）
 ▼採用予定数

要員区分	陸上		海上		航空	
	一般幹部候補生	一般幹部候補生	一般幹部候補生	一般幹部候補生	一般幹部候補生	一般幹部候補生
男子	約65名	約50名	約50名	約40名	約40名	約40名
女子	約10名	約5名	約5名	約5名	約5名	約5名

▼受験資格 日本国籍を有し、平成9年4月1日現在、22歳以上26歳未満で大学卒業程度の学力を有する者。大学院修士課程修了者は28歳未満
 ▼問い合わせ 室蘭募集事務所（室蘭市東町2丁目21～12石井ビル1F）電話9533

新入学児童（園児）を交通事故から守りましょう



春の交通安全運動

4月6日（土）～4月15日までの10日間「春の全国交通安全運動」が実施されます。

- 運動の重点目標
- ①子ども、特に新入学（園）児と高齢者の交通事故防止
 - ②スピードの出し過ぎなど無謀運転の防止
 - ③シートベルトの着用の徹底
- 市民のみなさんのご協力をお願いします。

お詫びと訂正

広報のほりべつ3月1日号の12ページ「登別の野鳥たち」イカルチドリの写真の白黒が反転していました。お詫びして訂正します。



となりまち ホットライン



水族館・青少年科学館・民俗資料館の入館料の一部が無料に！
 4月1日から水族館・青少年科学館・民俗資料館の入館料の一部が無料になります。多くの方の活用を促しています。

施設	開館期間	時間	入館料
水族館	4月15日～10月31日（期間中無休）	9時15分～16時45分	大人 800円 中学生以下 700円以下 小学生以下 無料
青少年科学館	同前	9時～17時	同上
民俗資料館	同前	9時～17時	同上

伊達市



第23回北海道美術工芸協会展 伊達移動展にお越しを

北海道美術工芸協会は北海道の工芸作家の集まり、昭和49年に結成されて以来、七宝、陶芸、木彫など多くの分野で熱心な創作活動と普及活動を行っています。この機会に、独自のテーマ「伊達」に響かざるべしという目的を、ぜひご賞覧ください。

▼日時 4月26日（木）～30日（火）10時～18時（最終日は17時まで）
 ▼会場 カルチャーセンター大ホール
 ▼入場料 無料
 ▼作品内容 陶器、組ひも、金工、ガラス、七宝、刺しゅう、染色、陶芸、陶人形、皮革、木工、木彫、和紙など
 ▼問い合わせ カルチャーセンター 電話42201515

うらびょうし



白銀満喫

3月3日にカルルス町のサ
ンライバススキー場で開催され
た第32回カルルス温泉スキー
まつりは好天に恵まれ、大勢
の市民がもちまきや宝探しな
どに参加し、チビツ子から大
人まで真っ白い雪の中、冬の
一日を楽しんでいました。
また、メーソンの少年滑降大
会やスノーボード大会の会場
では、参加選手の懸命な滑り
に熱い声援が飛んでいました。

人のうごき

- 人口 57,325(-97)
 - 世帯 22,602(-43)
- ()は前月比

平成8年2月末日現在

鳥名 オジロワシ (冬鳥)
観察時期 11月～3月



(文・写真提供 自然愛好グループヨシキリの会)
●問い合わせ 井野さん (☎85-7515)

ボクはオジロワシ。鳥
の中の王様だ。ボクガひとつ
飛びするとカモメやカモ君たちは
トリ肌立てにけけ出すよ。ワシツカみに
されたら命トリだからね。でも本当は魚の
方が好きなんだ。
今はもうシベリア方面に帰ってるけど、真冬
には札幌内台地を大きく幅広い翼を広げて舞ってる
のが見られるよ。近くにはトビも飛んでいるけど、
体が大きくて、くさび型の白い尾の方がボクだ
からね。
今年はまだまたま幌別川におりた時に写真を
撮られたけど、本当は河畔林があつたら木
の枝に格好良くとまっているところを撮
られたかつたなあ。
札幌内ではお気に入りのとまり木の
すぐ側まで山ガ削られるし、太
い樹も目につかなくなつて
きて心配なんだ。

